

# 成願寺

平成三十年納めの観音・年末の会説教

## 父母の広大な恩徳

滋賀県総寧寺住職・徳勝寺東堂 河合正博

ただいま方丈様よりご紹介を賜りました、滋賀県米原市より参りました総寧寺住職の河合正博と申します。成願寺様とのご縁は、こちらに長年盂蘭盆会法要などにお見えになる東円寺ご住職の藤木道明老師、山手通りに面して大きな素晴らしい達磨さんの



滋賀県総寧寺住職・徳勝寺東堂  
河合正博老師

季報

120

令和元年6月18日  
(2019年)

目次

「父母の広大な恩徳」河合正博……………	1
平成三十一年春の観音詣りの報告……………	6
山内短信……………	8

### ◎秋の観音詣り

「小田原道了尊と修禅寺巡拝」参加者募集

小田原の大雄山最乗寺への拝登は平成二十二年、ご開山了庵慧明禅師六百回大遠忌において、当山住職が焼香師を勤めて以来となります。大雄山守護妙覚道了大薩埵がお祀りされる御真殿にて特別祈禱をいただき、点心(精進料理)を頂戴します。江戸時代後期の農政家・二宮金次郎生誕の地に隣接する「二宮尊徳記念館」を見学。

宿は伊豆の名旅館「稲取銀水荘」です。

翌日は、こちらも二十五年ぶりの拝登となる、名利修禅寺へ。境内拝観の後、ご住職の吉野真常老師にお話を賜ります。その他、観音霊場をもう一ヶ寺参拝の予定。

日程 十一月十一日(月)～十二日(火)  
会費 四万円(予定)

▼檀家以外の方も、どなたでもご参加いただけます。

絵が掲げてございますが、その絵を描かれた方です。東円寺様と私どもが近くで、大変懇意にさせていただいております。その東円寺様の落慶法要の時に、ご当山の方丈様と初めて親しくお話をさせていただきましたら、びつくりいたしました。私ども総寧寺四世住職の春屋宗能禅師様と成願寺様のご縁が大変深いんですね。

成願寺様の開基・鈴木九郎様が当時小田原最乗寺にいらした春屋宗能禅師様のもので得度されている。成願寺様の礎を築いたのが開基・鈴木九郎様。それを導かれたのが、春屋宗能禅師様ということなのです。そういった、昔、昔のありがたいご縁もございまして、方丈様より本日のお声がけをいただき、喜んで上京させていただいた次第でございます。

喜んで、と申しましたが、私は東京が大好きでございます。若い頃、修行を豊川稲荷で四年間いたしました。その後、赤坂にございます東京別院でお世話になりながら、駒澤大学の夜学に二年間通いました。そして卒業となったときに、田舎のお寺には兄弟子がおりますし、東京から離れるのもなと思いついて、東京消防庁の試験を受けた。そうしたら受かりましてね。幡ヶ谷の消防学校で六ヶ月間の初任教

養を受けました。深川消防署に配属になりました、いろいろな経験もさせてもらいましたが、師僧のお寺から「修行を終えて、いつたいなにをやっているんだ」と連絡がきてしまいました、残念ながら辞職。戦国武将の浅井長政の菩提寺であります長浜市の徳勝寺に跡取りがないということで参りました。そしてまたご縁があつて、現在の総寧寺の住職となりました。そのおかげさまで、本日参上できたという次第でございます。

#### 数え切れない親の恩

豊川稲荷での修行時代、単頭老師でありました柴田俊成老師が夜坐の際に「父母恩重経」の意識を聞かせていただきました。「父母恩重経」は、お釈迦様がお説きになられたもので、両親の広大な恩徳を説いた内容です。単頭老師が読んでくださったのは、「父母恩重経」を元として、竹内浦次という方が作られた詩歌「報恩の歌」で、戦前までは師範学校などで広く歌われていたそうです。

私たちは、誰一人として両親がいけないという者はいません。お父さん、お母さんのおかげでこの命をいただいております。

この漆黒の宇宙の中であって、様々な生物がこうして暮らしていけるのはこの地球だけ。地球は宇宙のオアシスです。その地球上に、七十三億人も人が暮らしています。そしてこの美しい日本列島には、一億二千万人が暮らしている。

その数字だけで考えますと、この世に生まれてくることはそんなに難しいことではないと思われる方がいるかもしれません。でも、小さな小さな微生物まで考えますと、地球上の生物は無量大であります。漆黒の宇宙の中のオアシス地球に無量大に暮らす生き物たちの中にあつて、人間に生まれてきたこと。これは決して忘れてはならない、両親のおかげさまということなのです。

これをお釈迦様が、「父母恩重経」のなかで説かれています。両親に対して、十種の恩徳があるだろうということです。「報恩の歌」で紹介されている意識を合わせてご紹介します。

### 一には、懐胎守護の恩

「ははは母の我子を、思ふこと。この世に並ぶ、ものもなし。(略)唯胎児のために、祈るなり」

これは、母親の胎内に宿ったその瞬間から、守り、

慈しんでくださった恩です。悪阻もあるでしょう。約十ヶ月の長きにわたり、転んだりしないように、風邪などをひいても薬も飲まず、自分のためではなく、子のために栄養のあるものを食べ、運動が必要ならして、無事に産まれてきてくださいと、祈りにも似た思いで大事に過ごしてくださった恩です。

### 二には、臨産受苦の恩

「骨節くだけ、身もいたみ。(略)父も心身、おののきて。母を気づかい、子を憂い。諸親眷属、あつまりて。ただ安産を、願ふなり」

時が満ちると、いよいよ出産となります。青竹を握ると押し潰すほどの痛みと聞きますが、その苦しみに耐えてくださった。皆、必ず受けてきた恩です。

### 三には、生子忘憂の恩

「父母の喜び、かぎりなく。子の泣く声を、耳にして。みな蘇るが、ごとくなり」

妊娠中も出産も、あれだけ苦しかったのに、子の泣き声を聞いていると全て忘れてしまうというのです。それまでの全てのしんどさや痛み、苦しみを忘れて、「あなたに会えて良かった」と思ってくださいる

恩です。

#### 四には、乳哺養育の恩

「幼な子一人、育つれば、花の顔、いっしかに。衰え行くこそ、悲しけれ（略）。幼な子乳を、ふくむこと。百八十斛を、越すとかや」

母親は寝る暇もなく、お乳を与えてくださいましたね。三時間おきでしたでしょうか。早朝だろうが真夜中だろうが、「おぎゃー」と泣けば、お乳をくださる。その総量は、一・八リットル掛ける百八十ということだそうで、それだけ身を削ってお乳を与えてくださった。母乳が難しい場合でも、時間関係なくちようど良い温度のミルクを作り、与えてくださる。そうした苦勞がなければ、赤ちゃんは栄養不足となってしまうでしょう。

#### 五には、廻乾就湿の恩

「身を切る如き、雪の夜も。骨さす霜の、あかつきも。乾ける処に、子を廻し。懐中けがし、背をぬらす」

「廻乾」というのは、乾いているところに子どもを寝かすということです。思い当たりますか？ おもらしをして布団を濡らしてしまつた時、母親は乾い

たところに寝かしてくださいました。そして自分は、何かタオルでも敷いてそこに寝てくださいました。そうした恩をいいます。

#### 六には、洗濯不浄の恩

「不浄をいとう、色もなく。洗ふも日日、幾度ぞ」  
これは、子どもの小便であっても大便であっても、決して嫌がることはなく、洗濯をしてくださり、いつでも清潔な衣類を着せてくださった恩です。

#### 七には、嚙苦吐甘の恩

「甘きは吐きて、子に与え。苦きは自ら、食ふなり」  
自分の分はなくても、子に与えてくださる。または、栄養のある、おいしくて食べやすいものは子にくださり、自分は残りをいただく。そういう親の恩です。

#### 八には、為造悪業の恩

「父母は吾子の、ためならば。悪業つくり、罪かさね。よしや悪趣に、落つるとも。少しの悔も、無きぞかし」  
これは、我が子のためになるならば、どんな悪いことでもしてしまふ。その罪は自分が引き受ける。それでも、子のためになるならば厭わないという親

の愛ですね。

### 九には、遠行憶念の思

「若し子遠く、行くあらば。帰りにその面貌、見るまでは。出てても入りても、子を憶い。寝ても覚めても、子を念う」

小学校に上がりますと、家にいるよりも、お友達のところへ遊びに行ったり、お友達と公園に行ったり。親のそば近くから離れている時間も増えて参ります。また、なにか行事でもあれば泊まりで行ってしまうこともあるでしょう。その離れている間中、親は子を思っております。帰ってきて、その笑顔を見るまで、心配してくれているのです。

### 十には、究竟憐愍の思

「己れ生ある、その内は。子の身に代らん、事思う。己れ死に行く、その後は。子の身護らん、事願う。」  
生きている間は、子に災いが降り掛かるうものなら、代わりたくらいと願い、死んでいく時には、我が子の幸せを心から願ってくださる。その深い、深い愛が十個目のご恩です。

親というのは、たとえ自分が死んだあとでも、そ

の魂が私たちを見守ってくださいます。毎朝、みなさま仏壇に手を合わせますね。「ご先祖様、おはようございます。お父さん、お母さん、ありがとう」と心の中で感謝の思いを伝えていただく。そうしたこと、何よりのご供養になるのではないかと思うわけです。

最後に「父母恩重経」の意識の終わりの方をご紹介したいと思います。特に若い方にぜひ知っていただきたい内容です。

あはれ地上に、数しらぬ。衆生の中に、ただひとり。父とかしづき、母と呼ぶ。貴きえにし、伏しをがみ。起てよ人の子、いざ立ちて。浮世の風に、たたかれし。余命すくなき、ふた親の。弱れる心、慰めよ。さりとも見えぬ、父母の。夜半の寝顔を、仰ぐとき。

見まがふ程の、おとろへに。おどろき泣かぬ、ものぞなき。木静まらんと、欲すれど。風の止まぬを、如何にせん。子養はんと、ねがへども。親在さぬぞ、あはれなる。逝きにし慈父の、墓石を。涙ながらに、拭ひつつ。父よ父よと、叫べども。答えまさぬは、果敢なけれ。ああ母上よ、子を遺きて。何処に一人、逝きますと。胸かきむしり、嘆けども。帰りまさぬぞ、悲しけれ。

父死に給ふ、そのきはに。泣きて念ずる、声あらば。生きませる時、慰めの。言葉かわして、微笑めよ。母息絶ゆる、その臨終に。泣きて拜がむ、手のあらば。生きませる時、肩にあて。誠心こめて、揉みまつれ。げに古くして、新しき。道は報恩の、をしへなり。孝は百行の、基にして。信の道の、正門ぞ。世の若人よ、とく往きて。父母の御前に、跪拜づけ。世の乙女子よ、いざ起ちて。父母の慈光を、仰げかし。老いて後、思い知るこそ、かなしけれ。この世にあらぬ、親の恵みに。

みなさま、いかがでしょうか。「親孝行したいときには親はなし」という諺もござります。自分も歳をとり、お父さん、お母さんから受けた愛に気がついた時、お父さん、お母さんがお元気で、直接孝行ができればそれに勝る事はございませぬ。ですからこのお経は、その事に気がつけよ、と説いてくださっているのです。そうは言いますが、私もすでに親を亡くしております。そうした場合には、親がしてくださったように、心の中でいつも思うこと。親に恥ずかしくない生活をする事が、報恩ということではないかと思うのです。

合掌

## 平成三十一年春の観音詣りの報告

平成最後となった春の観音詣り。例年通り、四月二十九日(月・昭和の日)に行われました。

朝七時、成願寺に集合すると、観音堂にて旅の無事を祈念してご祈禱。バス二台に分乗して、まず最初に中央線武蔵境駅ほど近くの観音院へ。

観音院は承応二年(一六五三)、ご開山・盛岳栄見大和尚にて開創された名刹で、本尊様は准胝観音菩薩。普段はお厨子の中で秘仏としてお祀りされていますが、一行のために特別に御開帳をしてくださいます。八時半に到着すると、本堂にあげていただき、ご挨拶のお経をお唱えいたしました。

ご住職の来馬正行老師より、お寺の開創・歴史について、准胝観音菩薩の功德について詳しくお話し



観音院にて読経する一行



観音院方丈様のお話

いただきました。本尊様の前で記念撮影を済ませると、早朝より方丈様が煎じてくださった甘茶

のご接待を頂戴しました。滋味深い味わいで、その功德が心体すみずみまで行き渡るおいしさでした。おみやげにと、方丈様が毎年ご自身で絵柄を描いているという団扇を全員頂戴し、お見送りをいただきながら観音院を後にしました。

バスは渋滞の中央道を避けて、一路新青梅街道を次に参拝する塩船観音寺を目指します。

大化年間（六四五～六五〇）、若狭の国の八百比丘尼が一寸八分の観音像を安置したことがはじまりという塩船観音寺は真言宗醍醐派の別格本山。八百比丘尼といえば、驚くほどの長寿であつた（一説には八百歳まで生きられたとか）そうで、古来より不老長寿を祈念する人々の信仰を集めてきました。四季折々の花の寺としても知られ、特に春はつつじが有名。ちょうど「つつじ祭」が開催されていて、参道



塩船観音を散策

には露店が立ち並んでいました。塩船観音寺は、三つのお堂が国の重要文化財に指定されています。最初は室町時代の建立で八脚門・切妻造り茅葺き屋根の山門。左右の仁王様が辺りを睥睨しています。次は室町時代建立の阿弥陀

堂で、江戸時代初期の造立とされる阿弥陀如来に参拝。続いて室町時代建立、木造寄棟作り、茅葺き屋根の本堂へ。ご本尊の十一面千手千眼観自在菩薩に参拝させていただきました。ご本尊様は、千の慈悲の眼で観て、千の慈悲の手でお救い下さる現世利益の菩薩様だそうで、われわれ一行の他にも大勢の参拝者で賑わっていました。本堂からさらに進むと、護摩堂をぐるりと囲むように色とりどりのつつじが咲き誇り、春爛漫の景色を楽しみました。

バスは十分ほど豆腐ゆば会席のままごと屋へ。多摩川の清流を望みながら、あまごややまめ、トウキョウXなど地元の食材をふんだんに使ったお料理を堪能しました。



尾崎観音にて読経

最後にあきる野市の尾崎観音玉蔵寺へ。富貴、資財、勢力、威徳を与えてくださるといふ如意輪観音は弘法大師一刀三札による御作。普段は閉ざされている観音堂ですが、折良くこの日が縁日で、ご住職の加藤昌道老師に導かれて堂内で参拝させていただきました。本堂前で記念撮影をして、成願寺への帰路につきましました。

## 山内短信

◎孟蘭盆先祖まつり（おせがき）のお知らせ

七月十一日（木）朝十時半受付開始

十二時半 開山・歴住諸大和尚報恩供養

十三時 説教 北海道天龍寺住職 清水勝美老師

十四時 先祖まつり法要・檀信徒総回向

※東京地方は七月十三日から十五日がお盆です。その間、檀信徒各家へ柵経に伺います。これまで伺っていないお宅でご希望の方は、寺務所までお申し込みください。

◎「里見浩太郎の東京お寺探訪」撮影に來山

去る、五月十四日（火）、一般社団法人日本地域振興・新聞社企画・制作・著作による「里見浩太郎の東京お寺探訪」の取材クルー一行が來山しました。メインの里見氏、ゲストで女優の長谷川稀世さん、司会者を迎えた住職は、四阿、観音堂、開山堂、防空壕、本堂など山内を案内しました。

無料配布型地域コミュニケーション新聞「東京23区新聞」に撮影の様子と当山が紹介される他、テレビ番組も



放映予定。また、同番組はネット配信も予定されています。新聞の発行日、テレビの放映日等は、決まり次第当山ホームページにてお知らせいたします。

◎成願寺中野たから幼稚園作品展の報告

去る、二月九日（土）、大きな行事の一つである「作品展」が開催されました。年少さくら組は「海賊船」、つぼみ組は「つぼみのおうち」、年中わかば組は「UFO」、すみれ組は「猫バス」、年長ことり組は「ぐるんぱのようちえん」というテーマで、それぞれ知恵を出し合ってクラス制作をした他、個人制作にも取り組みました。年間を通して行った造形活動、線を引く、描く、塗る、折る、切る、貼る等の経験を生かし、園児の発想豊かな作品が多数展示され、大勢のご父母が観覧に訪れました。



ホールには年長組の作品が展示されました。お寺の境内で拾ったムクロジの実を利用した迷路は、土曜参観での親子も共同作品で、大人にも子どもにも大人気でした。



先生方は作品が少しでも見やすいように、壁いっぱい工夫して展示をしました。準備、片付けも頑張りました。